

発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2022
5月13日
(金曜日)



Twitterの
公式アカウント
始めました

@nikkanjidosha



日刊自動車新聞

待機児童問題 自ら解決

京阪神 新車ディーラーが相次ぎ企業内保育所

働き方改革の重要性が一段と高まる中、京阪神で保育園を開設する新車ディーラーが増えている。各社は従業員が育児と仕事を両立できる職場づくりとともに、待機児童問題という課題解決への貢献を目指し、地域との結びつきを強めている。3地域・4社の取り組みをまとめた。（関西支社・松山知彦、町勇樹、谷口利潤）

社員の安心高まる

大阪トヨタ（横山昭一郎社長）が2019年4月に開設した「蓮美幼児学園京町堀ナーサリースクール」（大塚市西区）は、幼児保育事業者として多数の実績を持つ蓮美幼児学園との連携による「企業主導型保育施設」として誕生した。0〜5歳児を受け入れ定員は49人。開設後、乳幼児を抱える社員から「会社主体の保育所なので安心感がある」「自治体から入園を断られたので助かった」などの評価があり、働きやすい環境づくりに寄与している。西区は市内屈指の人口増加地域で、待機児童問題が深刻

マーケット最前線

今年4月から従来は午前9時だった開園時間を30分前倒しした。大阪トヨタの社員を一人、保育園と自社の機関連して常駐させる取組も開始し、ニーズや状況に合わせて進められている。地域と入念に連携

地域と入念に連携

トヨタ新大阪販売ホールディングス（久保邦夫社長、大塚市淀川区）が本社内に開設した企業主導型保育施設「トヨタ新大阪花冠保育園」は、4月に開園から満3年を迎えた。従業員や周辺住民らを対象に最大19人（0〜5歳児）の受け入れ体制を整えている。高田利夫園長は「自分らしく生きていけるように、全人格を尊重し、子どもたちが本来持つ生きる力を育んでいきたい」と保育理念を説明する。

地域の利用も受け入れ社会貢献

神戸マツダ（橋本寛社長）は、地域での社会貢献として、神戸市垂水区に事業所内保育園（認可保育園）「サンク・トレソール」を4月に開園した。待機児童の解消に取り組む、女性の活躍促進につながるほか、自動車ディーラーの社会的な存在価値を高めていく考えという。同園の立地エリアは商業施設

土日も開園働きやすく

設が充実しベッドタウンとして栄える「学園南地区」で、子育て世代が多数、居住する。こうしたエリアに保育園を開設することで、働きやすくなる。同グループのスタッフが利用しやすい体制を整えた。開園時間も午前7時45分〜午後7時30分と通常の保育



新車ディーラーの保育園で子供たちがすくすくと育っている（写真はみくま保育園「はたらくるま達足」の様子）



大阪トヨタの蓮美幼児学園京町堀ナーサリースクール



神戸マツダのサンク・トレソール



KTGホールディングスのみくま保育園



トヨタ新大阪販売ホールディングスのトヨタ新大阪花冠保育園

型の「みくま保育園」を京都市南区に開設した。現在の定員数は30人で、保育士や子育て支援員などを自社で雇用し、内閣府の企業主導型保育事業助成を活用して保育事業に参入した。同保育園の開業により、グループの福利厚生を充実させ、従業員満足と企業価値を同時に向上することが狙いだ。

社員のための保育園として土曜に加えて日曜祝日も開園し、同グループのスタッフが利用しやすい体制を整えた。開園時間も午前7時45分〜午後7時30分と通常の保育

同社は地域社会の問題解決とともに、社内の働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでいる。今年3月には健康経営

賞優良法人の大規模法人部門「ホワイト500」に5年連続で認定された。産業保健師の直接雇用や専任産業医としての個性を打ち出した。また、経験値の高い医師と契約し、社員の安全衛生面の管理も充実させるなど、生き生きと働ける環境づくりに熱心だ。

京都トヨタやネット・トヨタ京南などを運営するKTGホールディングス（西村勇社長）は19年4月、企業主導型

世界を目指し飽くなき挑戦

た15年のW杯で、5位に終わった

メダルを

現在、日本代表のサポーターが結成する地域クラブ「BOOS（ブーース）」に所属する。プロ選手ではないため全日本選



試合風景

制して見事に優勝した。ダイハツ千葉は、高校女子サッカーや小学生パドミントンなど、子どもと女性のスポーツ支援に積極的だ。タッチラグビー

ギナーズブック 自動車業界 Business Beginners Book

入社1年目で身につけたい仕事の基本とビジネスマナー
自動車業界人となった新入社員に必要な仕事の基本を、この1冊にまとめました。ビジネスの基礎であるマナーやルール、クルマに関する基本知識はもちろん、スキルアップのためにやるべきことなど、入社1年目に身につけておきたいものばかりです。導入教育のガイド役として、ぜひご活用ください。

新入社員 導入教育の 決定版
重版出来!

2022年5月13日号日刊自動車新聞
企業主導型保育園 京町堀ナーサリースクールが紹介されました。